

山口県におけるトマトハモグリバエの 発生生態と薬剤感受性

山口県農業試験場病害虫部 ^{おおくぼたかし} 大久保孝志*・^{やまもと} 山本 ^{けんじ} 顕司・^{とのごうちひさこ} 殿河内寿子・^{もりしげ} 森重 ^{ひろし} 宏**

はじめに

本県では1999年の夏から秋にかけて、阿東町、むつみ村の夏秋トマト（雨よけ栽培）において、急激にハモグリバエ類による発生が増加した。多くの圃場で下葉が枯れ上がるなど、従来見られなかった激しい被害となった。笹川満廣博士（京都府立大名誉教授）に種の同定を依頼したところ、マメハモグリバエの近縁種であるトマトハモグリバエ（*Liriomyza sativae* BLANCHARD）であることが判明し、同年12月27日に特殊報を発表した（京都府と同日発表）。本稿では、山口県における本種の発生生態、薬剤感受性試験結果を紹介する。

I 山口県におけるトマトハモグリバエの 発生生態

1 発生分布、寄主植物

本種の分布状況を確認するため、2000年、2001年に県内一斉調査を行った。その結果、発生は19市町村となり、本種は県内に広く発生していることが確認された（図-1）。越冬については不明であったが、2001年に本種が下関市の施設内で3月に発生していることが確認され（表-1）、冬期に加温して栽培を行う平坦部の施設内では越冬可能であると考えられる。

被害作物については、これまでにトマト、ナス、キュウリ、ヘチマ、インゲン、ササゲ、ハクサイ、キャベツの4科8種が確認されているが、寄主範囲は広いため、今後も被害作物は拡大すると考えられる（表-1）。

2 夏秋トマト（雨よけ栽培）における発生消長

現在、本県において最もトマトハモグリバエの被害が顕著な作物は、中山間地域のむつみ村および阿東町の夏秋トマト（雨よけ栽培）である。ここでは、その発生状況について報告する。

Biology and Pesticide Susceptibility of Tomato leaf (*Liriomyza sativae* BLANCHARD) in Yamaguchi Prefecture. By Takashi OHKUBO, Kenji YAMAMOTO, Hisako TONOGOUCHI and Hiroshi MORISHIGE

（キーワード：トマトハモグリバエ、ナスハモグリバエ、発生生態、薬剤感受性）

*現 生産流通課。

**現 海外青年協力隊（メキシコ）。

夏秋トマト（雨よけ栽培）の耕種概要：品種は‘桃太郎8’または‘桃太郎’を栽培，3月中旬～4月中旬に播種，5月上旬～6月中旬に定植した。栽培期間中はハウスサイドを開放し，11月中～下旬まで収穫を行った。

1999～2001年の発生状況：1999年，2000年は阿東

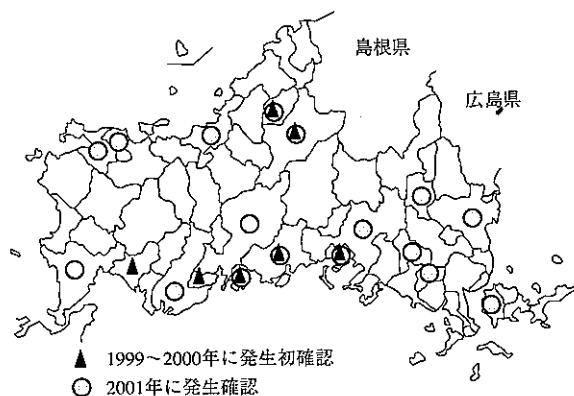


図-1 トマトハモグリバエ発生確認市町村

表-1 トマトハモグリバエ発生確認調査結果

市町村名	初確認 年月日	調査作物名
むつみ村	1999.8.13	トマト
阿東町	10.12	トマト
新南陽市	2000.8.21	キュウリ、インゲン
防府市	9.12	ササゲ、キュウリ
秋穂町	9.8	トマト
阿知須町	〃	インゲン、キュウリ
下関市	2001.3.12	キュウリ、トマト、 <u>キャベツ（苗）</u>
萩市	6.26	トマト、インゲン
熊毛町	9.7	ナス
徳山市	9.17	<u>ナス</u>
大島町	9.18	キュウリ
山口市	〃	<u>ヘチマ、ハクサイ</u>
岩国市	9.20	キュウリ、インゲン
美川町	9.30	インゲン
大和町	10.3	ナス
宇部市	10.18	トマト、インゲン
油谷町	11.27	トマト
日置町	11.27	トマト

—：2001年に、県内で初めてトマトハモグリバエの発生を確認した作物。